

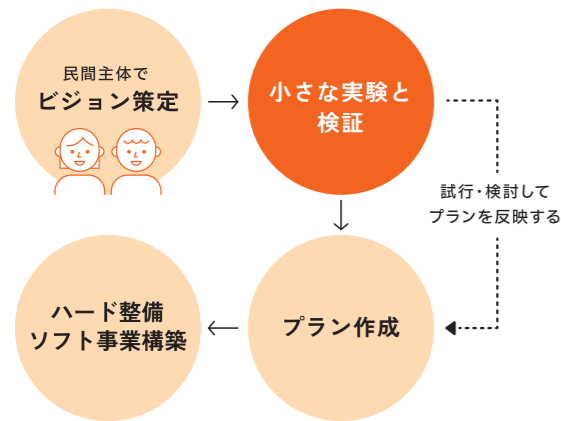
ビジョンを元に、小さな実験と検証を重ねていきましょう！

欲しい暮らしは自分たちでつくる

KOKUBU CHUO AREA VISION

Life is Creative.

国分中央エリアビジョン



これからのまちづくりは、激しい時代の変化にも柔軟に対応していくことが求められています。エリアの価値を将来にわたり創造していくためには、担い手となる民間（暮らす方／地域組織／民間事業者など）の「つかう」側が主体となってビジョンを掲げ、自立したマネジメントの在り方を見据えながら、小さな実験と検証を重ねていくことが大切です。

その検証結果を行政のまちづくり計画へ反映することで、街の実情に合った効果的な取組みが実現できます。このビジョンは、ハード整備を中心とした固定的な在り方や方針を示すのではなく、私たちが街を「つかう」イメージを共有することを目指しています。

民間と行政の適切な役割分担と連携を

ビジョン実現のためには民間と行政がそれぞれ志と責任を持ち、適切な役割分担による連携が必要です。これまでの行政主導、市民参画のまちづくりではなく、これからは民間主導でプロジェクトを興し、行政がこれを支援する形で行う「民間主導の公民連携」が求められており、国分中央地区においても、両者が連携をしながら取組みを推進していきます。

民間の役割



民間主体のプロジェクトの企画立案・実行

- ビジョンの実現に向けたプロジェクトの企画立案、仲間集め、実施
- 遊休不動産の暫定利用を基本とし、低コスト・低リスク・スピーディに事業を実践
- 公共空間や民有地の利活用と活用体制の構築及び自由な活用を見据えた企画立案

国分中央未来研究室

- ビジョンを実現していくための組織。プロジェクトごとに活動母体となる実行体制を組成し、具体的アクションを進める。

行政の役割



民間の取組みの支援・促進

- 不動産を所有するオーナーへの意識啓発と理解促進
- 創業支援や事業者の伴走支援体制の構築
- 公民連携事業の適切な企画と連携体制の構築、事業推進

行政内タスクフォース

- ビジョンの実現に向け、庁内横断の体制で民間の取組みをバックアップする。

連携

R5年度以降、具体的な取組みを進めていきましょう！



令和5年度以降は、このビジョンの実現に向けてリノベーションまちづくりの考え方を参考にしながら段階的に取り組んでいきます。まずはみなさんが思い描く個別のシーンを仲間と共有することから始め、小さなチャレンジとその検証を積み重ねていきましょう。

ご連絡・ご相談窓口

●リノベーション事業やリノベーションまちづくりに関心がある方、何かやってみたい方
霧島市役所 商工観光部 商工振興課 電話／0995-64-0912 E-mail／shou-seisaku@city-kirishima.jp

LIVE KIRISHIMAの取り組みは、下記URLからご覧ください。
<https://live-kiri.com/>

CHECK

「国分中央エリアビジョン」
についての詳細はこちら
からご覧ください。



<https://bit.ly/432kyMS>



国分中央未来研究室

霧島の中心地・国分中央エリア。霧島のリノベーションまちづくりの取り組みのなかで様々な人が集まり、動きが生まれてきたこのエリアがこれから目指す未来とは一。

国分中央未来研究室では、国分中央で活動している・これから活動したいメンバーが集い、自身の好きなこと(=偏愛)や、やってみたいこと、できることを共有することからスタート。それぞれのおもいを共有し、助け合い応援し合う関係づくりをしながらプロジェクトを具体化し、ほしい未来(=エリアビジョン)を描きました。



全4回行われた国分中央未来研究室の様子

エリアビジョンって？

国分中央エリアビジョンは、都市計画道路や駐車場等のハード整備(「つくる」)を進めてきた市街地において、若手や女性を中心とする将来のまちの担い手が主体となり、まちなかを「つかう」視点で、将来こうなってほしいという姿や活用シーン、その実現に向けたプロジェクトを提案するものです。民間主体の提案をベースにしつつ、公民連携の姿を共有し、リーディングプロジェクトから1つずつ実現していきましょう。

国分中央って？

ほどよい便利さとほどよい自然に囲まれた人口およそ9,400人のエリア。鹿児島空港に近いという地理的好条件からソニーや京セラなどのハイテク産業が発展。多くの商業施設が立ち並び、周辺地域の核的役割を担っています。



01.メンバーが考える

国分中央エリアの現状を、暮らす視点で分析！

商いの側面では...

昼はちょっと寂しいけれど魅力的な夜が過ぎる飲食街

通勤者は多いが、人通りは少ない昼の国分。一方、夜は個性的な飲食店が営業し、通りが賑わう。人気店に並ぶ客同士のおしゃべりや路上ライブなど公共空間にまでその賑わいがしみだしている。



商い

エリアの魅力を引き出す新たな動き

くらしの側面では...

実はくらしの場でもある国分 便利だけど少し物足りない

公共施設、学校や保育園、デパート等が集まる国分は、便利で人気な住宅地。でも昼のコンテンツが少なく、本屋や花屋、雑貨ショップなど、くらしを豊かにするコンテンツがもっとほしい!という声も。



くらし

商い×くらしが融合したコンテンツが生まれている!



CASE 01 民間・公共の遊休空間などを活用したマーケット「えんがわマルシェ」。コンセプトは、人と人を繋ぐえんがわ。



CASE 02 「みんなの寄り道」をコンセプトに、国分のまちなかで毎月第3土曜日に開催するマルシェ。



CASE 03 POCKET MARCHÉ 昔からまちのコミュニティを担ってきた通り会の方々と、若い人たちが同じ空間でダベリ、酒を酌み交わす。

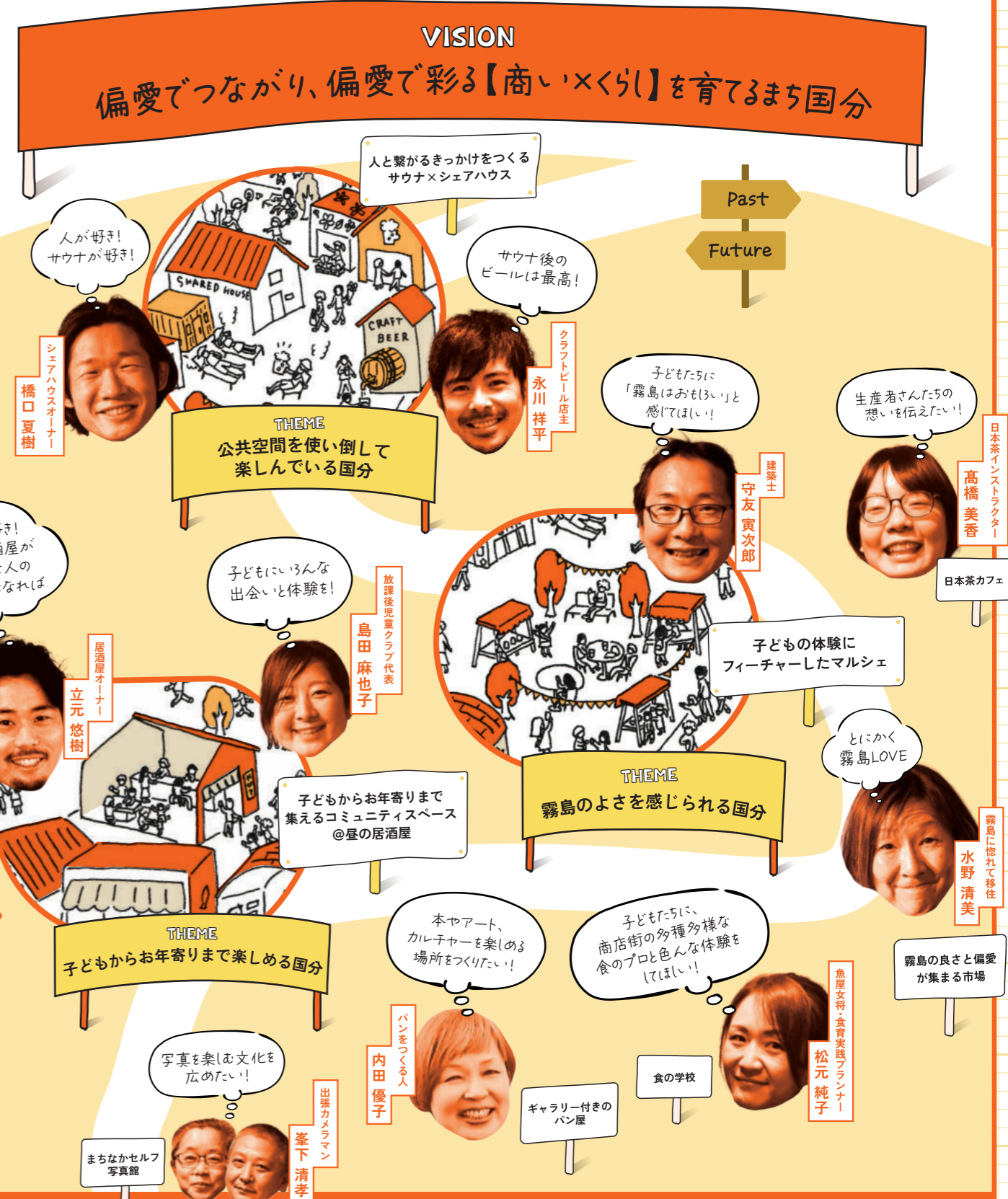
国分中央エリアの新たな兆し

「くらしを豊かにする商い」や「くらしの延長線上で行う小商い」それら表現する場としてのまちなかマルシェなど、「商い×くらし」が融合する新たな動きが生まれている。

02.メンバーが考える

国分中央で実現したいほしい未来とやりたいこと

メンバーそれぞれの好きなことややってみたいことを共有し語り合うなかで「やりたいこと」が具体化されました。そして、そうした対話の積み重ねのなかから国分中央の「ほしい未来」が浮かび上がってきました。



国分中央エリアの目指す姿

偏愛(=自分が好きなこと)を表現し、自分も楽しみながら、そこに集まる人同士もつながっていく。そんな「商い×くらし」のアクションが増えたら、国分はもっと楽しくなる!